

山田彰 在ブラジル日本国大使挨拶
日本人ブラジル移住110周年記念式典
2018年6月21日、於：下院本会議場

ロドリゴ・マイア下院議長
ケイコ・オオタ伯日議員連盟会長
下院議員各位、

はじめに、日本人ブラジル移住110周年に当たる本年、6月18日の「移住の日」を記念し、本日の素晴らしい機会を設けて頂きましたことに、御礼申し上げます。

110年前、最初の日本人移住者がサントス港に到着しました。移住者は、多くの困難に直面しつつも、常に真摯に励み、彼らの子孫は、今日の伯社会の重要な一員となるに至りました。現在、伯における日系社会は約190万を数えます。彼らが伯の発展に貢献し、現在も様々な分野で活躍していることを誇りに思います。また、日本国内には約18万人の伯人コミュニティがあります。こうした人々が人的絆となり、日伯両国は伝統的な友好関係を構築しています。

歴史を振り返ると、両国はナショナル・プロジェクトと呼ばれる様々な大規模事業を共に実施してきました。セハード農業開発、製鉄のウジミナス、パルプのセニブラ、造船のインブラス、アルミニウムのアルブラス、鉄鉱石のカラジャス開発などが挙げられます。また、我が国政府は、伯の都市インフラ、地上デジタル放送、防災対策などにも協力してきました。治安面でも、連邦政府や地方政府と連携し、伯全土における地域警察(交番)制度の導入を進めてきました。科学技術分野でも様々な協力が行われています。

二国間関係だけではなく、国連改革、気候変動、環境、軍縮など、国際場裡においても日伯両国は協力関係を深めてきています。

ご列席の皆様、

2014年8月、安倍晋三総理大臣はブラジルを訪問しました。この訪問には、私自身も当時外務省中南米局長という立場で同行しました。この時、サンパウロにおける演説で安倍総理は、日本の中南米外交に関する新方針として、「発展を共に」、「主導力を共に」、「啓発を共に」の3つの「juntos!!」からなる理念を発表しました。そして日伯両国は、国際社会において大きな責任をもつことを互いに確認し、「戦略的グローバル・パートナーシップ」を構築してきています。私自身、昨年8月に駐伯日本国大使として着任以来、このパートナーシップを更に強化していくことに努めているところで

す。

近年、両国関係はめざましく発展し、要人往来も活発化しています。2015年には

外交関係樹立120周年を記念し、ブラジル全土で約500件の記念事業が実施されました。この年、秋篠宮同妃両殿下も訪伯され、伯の皆様大変暖かく歓迎頂きました。

2016年には8月に安倍総理がリオ五輪閉会式に参加したのに続き、10月にはミシェル・テメル大統領が伯大統領として11年ぶりに日本を公式訪問されました。日伯首脳会談では、「戦略的グローバル・パートナーシップ」を将来に向けて更に強化していくことの重要性が確認されました。

2017年には、世界に先駆け、5月にジャパンハウスがサンパウロに開館しました。開所式には、テメル大統領やヌネス外務大臣、本日ご列席の下院議員の方々を含め、多くの方に出席頂きました。日本からは、日伯国会議員連盟会長の麻生副総理が訪伯し、開所式に出席しました。ジャパンハウスは、サンパウロの新しい文化的アイコンとなり、現代の日本の姿や多様な魅力を、伯、そして中南米全体に、積極的に発信しているところです。

日本人移住110周年を記念する本年に入り、3月には、ブラジリア開催の世界水フォーラム御臨席のため、皇太子殿下が訪伯されました。続いて4月にはオリヴェイラ上院議長が日本を公式訪問、5月にはヌネス外務大臣が訪日され、東京で日伯外務会談が行われました。その直後の同月20日には河野外務大臣がサンパウロを訪問して政策スピーチを行い、今後、国際場裡において、伯を含む中南米諸国とより緊密に協力していく意思を表明しました。

そして、来月(7月)には、眞子内親王殿下が訪伯されることが検討されています。この御来伯は、日本人移住110周年をハイライトするものです。私自身も、この重要な節目に、本日、日伯関係を更に強化していく決意を表明いたします。

最後に、本日の記念式典を開催するにあたり御尽力頂いたロドリゴ・マイア下院議長とケイコ・オオタ下院議員、そして、両国関係を支えて頂いている全ての連邦議員の皆様改めて御礼を申し上げ、私の挨拶を終わります。

ご静聴ありがとうございました。(了)